

## 平成27年度 第1回高山市総合教育会議における意見の論点整理

## ○地域との関わり・協働のまちづくりに関すること

- 協働のまちづくりの中で子ども達をどう育てていくのか、そこのネットワークづくりが必要。
- 地域で子ども達を育てることが大事。それにより地域力も向上していく。
- 全国の高校生で不登校になった子が約12万人おり、その内約5万人が退学しているというデータがある。不登校にならないための対策は、小学校の頃から何かしらの手立てが必要となる。教育委員会でその対策を考え政策提言をしていくためにも、予算が必要と考えている。将来的には、協働のまちづくりの中で、そのような子たちの居場所をつくれることが理想。
- すでに、子ども参画会議と一緒に取り組んでいるまちづくり協議会もあるが、全ての協議会において、教育・子ども達のことを視野に入れて取り組むことが必要。
- 0歳から18歳までとの考えがあるが、マイナス1歳から社会人スタートまでの支援が必要。

## ○福祉・保健との関わり・特別な配慮の必要な子への支援に関すること

- 子ども達は学校教育だけでなく、福祉分野など複数の分野が関わってくるため、担当課だけでなく市役所内での横のつながりが大事。
- 最近では学校へ来づらいう子供達が増えているため、特別な配慮の必要な子に対して、もう一步踏み込んだ支援をしていただき、どんな子も分け隔てなく教育を受けられる環境が必要。
- 学校現場では、車いすの子や障がいのある子など特別な配慮の必要な子がいるが、その子達への支援員が不足している。小学校の低学年の頃から療育と教育をすることで、子ども達の可能性を引き出せる。
- 人口が減っていく中で高山市の労働力を考えると、特別な配慮が必要な子達に、小さい頃からその子にあった教育、支援をすることで一人前に働けるようになるため、指導員の先生をつけて段階ごとの教育をしていくことが大事。
- 教育分野については成果が見えにくいいため予算がつきにくい。今の教育環境は充分ではないと考えているが、支援員の充実などの環境整備をするためには予算が必要。

## ○キャリア教育・高校との連携に関すること

- 医療・介護・福祉分野の人材不足を解決していくためには、子ども達が地元に戻って来てくれることが必要。市長公約にもあるが、小中学校の頃から福祉分野等に携わる将来像をみせるためにもサテライトキャンパスの設置が必要。
- 子どもが社会に出るためには大人の声を聴くことが重要。大人が情熱をもって語りかけ現場の声を聴かせることで、子ども達も希望や夢を抱いて社会に出ていける。そのためにも、キャリア教育を組織化し充実させることが大事。
- 地域の活性化、地域の子子ども達を成長させるためにも高校生を取り込んでいく仕組みが重要。教育振興基本計画の中でも高校生への視点は抜けている。
- 高校生が地域の課題解決に向け、地元の企業などと連携して新しい商品を開発するなどエネルギーに活動している。大学との連携も重要だが、市と高校生の連携、小中高との連携により、子ども達がより成長していく。
- 本町三丁目に実践的な店を出店したり、飛騨牛乳とのコラボで商品開発するなど、高校生がまちづくりに参画している。どこに住んでいるのかは関係なく、飛騨地域に住んでいる子供からお年寄りまでの全体的な教育力をあげることが大事であり、そのためには高校生との連携が必要。

## 平成28年度 第1回高山市総合教育会議における意見の論点整理

## ○地域との関わり・協働のまちづくりに関すること

- 現在、不登校気味の子どもが100人を超えている。子どものうちに不登校になると、高校へ行っても半数くらいが退学してしまったり、社会へ出てもニートになることが多い傾向にある。子どもたちがニートにならずに社会で働いてくれれば地元の活性化にもつながるので、予算はかかるかもしれないが、不登校の子どもたちに手を差し伸べてほしい。
- 不登校については、家庭環境に起因する場合と学校生活に起因する場合の2つがあり、家庭環境に起因する場合、学校や教員だけでは対応が難しい。就学前からの支援体制が大切だと考える。
- 不登校の子どもだけでなく、その親も苦しんでいる。子どもが生まれてからの支援は親への支援でもある。0歳児から社会人になるまでを通して、安心して子育てできる支援が望まれる。
- 全てのまちづくり協議会が子ども教育参画会議の取組みを支えてくれるようになってきた。地域の中で子ども達を育てる取組みが更に広がってほしいし、そういう事例を広く市民の皆さんに伝えていくことが大切。

## ○福祉・保健との関わり・特別な配慮の必要な子への支援に関すること

- アスペルガーの子は特定の部分が秀でていることが多い。就学前の早い段階で気づいてその子に合った対応をすることで普通に学校へ通い就労できることが分かってきたので、地域や学校で継続した支援が大切。
- 福祉・教育・行政・企業が縦割りでなく、横のつながりを持って、子どもの一生の見通しを持って、自立した生活ができる人を育てることが必要。
- 今年度から障がい者差別解消法も施行したので、周りの人たちの人権教育や認め合う心の醸成も大切。
- 国では特別支援教育を一貫してつないでいくために、個別のカルテの作成を推進し始めたが、高山市ではすでにサポートブックを用いて実施しようとしており、これをいかに実効性のあるものにしていくかが重要である。
- 市の子育て支援課は保育園の担当というイメージがあるが、今の子育て支援課は、子どもが生まれる前から18歳までを一貫して対応することが求められている。

## ○キャリア教育・高校との連携に関すること

- 高校生が地域のことを真剣に考えて様々な取り組みをしているので、市民の皆さんにも知ってほしいし、市としてもソフト面・ハード面で支援できることは支援をお願いしたい。
- 教育委員会では、郷土教育を大きな柱にしており、高校生自らが参画できる活動を推進していくことが地域の人材養成の点でも有益だと考える。
- 子どもたちを地域の活動に参画させることが大切。自分たちが地域のことを考えて市に発信することで、何か形になって返ってくるという学習をさせることで、地域に対する考えが深まる。
- 地域の経験者の方に学校に来てもらい話をさせていただくことは、キャリア教育において大変貴重な機会だと考える。自分の親の仕事以外については知る機会がなかなかないので、そういう時間を確保していく必要がある。
- 親が子どもに自分の仕事をあまり勧めていないという実態があることを知って驚いた。市では若者に地元へ戻ってきてもらうためにいろいろな取り組みをしているが、子どもたちに職業を考えさせる機会や社会と触れられる機会を持たせることが大切である。
- 地元へのUIターンを促進するため、市が行っている様々な若者支援事業について、市内の親御さんにお知らせするのも大事だが、市外の方への情報発信についても力を入れていくべき。

○食育・学校給食に関すること

- 食育は学校教育にとどまらず、全ての年代に重要な分野。
- 給食で使って欲しい食材がいっぱいあるし、子ども達に知って欲しい食材もある。

○食育・学校給食に関すること

- 学校給食のアレルギー対応については非常に大変な現状がある。なかには、お弁当を持参してもらっている子どももいる。
- 食事のアレルギーについては、学校の中だけでのことではなく、学校を離れてからも関わってくることなので、子ども同士、親同士、お互いを理解し合うこと、勉強し合うことも大切。
- 食事の取り方が認知症予防に大きく関わっていることが分かってきた。認知症になる20～30年前からの食生活が影響してくるため、小学校・中学校の頃からの食育が必要。一般市民にも食べることの大切さを知ってもらう取り組みが大切。
- 食材が値上がりしているが、できるだけ親御さんの負担が増えないように、市で対応していただけることを願っている。

○文化・文化財に関すること

- 子ども達に価値があることを植え付ける必要がある。各町内に資料はあるが、それをまとめたりする人材がないため、学芸員など専門的な人が必要。地域ごとに誇りを持たないと地域が持続していかない。
- 合併した市町村にはそれぞれの良いところや地域の宝があるため、大人も子供もそれを見直して、お互いの地域の良さを学ぶことが必要。また、深く知るためには時間はかかるが、小学校の頃から少しずつ地域のことを知ることが必要。
- まちの博物館に魅力ある展示品が少ない。まちの博物館は学習教育の施設であるため料金を徴収できないとのことだが、酒蔵だったところは切り離し、喫茶店にするなど有効活用することで、今進めている旧森邸の整備に併せ、まちの博物館を起点とした周遊ルートなどができる。

○文化・文化財に関すること

- 市の財産をいかに活用して利益を生み出すのかという視点も必要。今年4月に飛騨匠の技・ところが日本遺産として認定されたが、日本遺産の柱の1つが、文化財を活用して社会の活性化につなげるということである。文化財を守るだけでなく、付加価値を生み出すことが求められている。
- 学校教育の中では、小学校3・4年生と5・6年生を対象に郷土教育の副読本を作成し、その中に文化資料も盛り込んで活用している。中学校では、社会科の中で学校区の文化・文化財について学んでいる。
- 学習指導要領における文化の取り上げ方は無いに等しいが、高山市では郷土教育の中で高山市のまちがどうあってきて、何を目指していくのかを学ばせている。学校の先生が全てではなく、家庭の中でも地域の魅力や文化について子どもたちに語ってほしいし、各地域の宝を子どもたちに語れるようになってほしい。
- 総合教育や日常生活の中における文化振興のあり方や文化財保護活用のあり方は大きな課題である。

○スポーツに関すること

- 現在、中山野球場は条件を満たさないことで高校野球の予選会場とされていないが、これは高山市にとって大きな損失だと考える。予算はかかるが市全体の子ども達の育成を考えれば、投資金額以上の効果がある。

○スポーツに関すること

- 中山の野球場について、やはり、地域の皆さんが応援している姿というのがスポーツ振興のうえで大切だと感じる。そのため、長期的な視野に立って整備がされればと考える。
- 記録を極めるスポーツが注目されがちだが、スポーツ人口を増やすこと、日常的に運動することの楽しさを伝えることも必要。
- 認知症予防には食事だけでなく運動も重要である。トップを育てることも大切だし、日常的にスポーツに親しむ環境づくりも大切。

○その他

- これまでの議論の中で、まず、一人ひとりの子どもたちにきちんと目を向けてその子の状況に応じた対応をする姿勢が大切であること、一人の子どもに対して継続的かつ横断的に見ていく姿勢が大切であることがクローズアップされてきたと考える。